

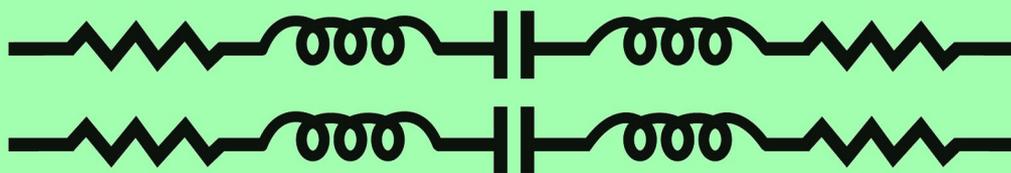


岩手大学電気電子情報科会誌

# きたかみ

第 66 号

2020 年 3 月 発行



# 目 次

会長挨拶 .....	会長 久保田賢二 .....	1
電気電子通信コースの近況 .....	電気電子通信コース長 向川 政治 .....	2
知能・メディア情報コースの近況 .....	知能・メディア情報コース長 藤本 忠博 .....	3
第16回（平成30年度）草刈賞受賞者 .....		4
令和元年度総会特別講演 .....	齊藤 久昭 .....	5
仙台支部からの寄稿		
通信42年と共に .....	数藤 崇 .....	9
2019年訪越の概要 .....	田中 利光 .....	10
仙台市地下鉄東西線開業4年を迎えて .....	田代 良二 .....	11
在学中の思い出と近況 .....	戸羽 幸江 .....	12
《支部だより》令和元年度東京支部報告 .....	狩野 利之 .....	13
令和元年度仙台支部報告 .....	数藤 崇 .....	14
令和元年度盛岡支部報告 .....	宮手 敏雄 .....	15
令和元年度岩手大学電気電子情報科会総会 .....		16
平成30年度決算書・令和元年度予算書 .....		17
令和元年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿 .....		18
令和元年度電気電子通信コース、知能・メディア情報コース構成員名簿 .....		19
総会添付資料 .....		20
特別寄稿		
日本一周（+韓国+ロシア）クルーズ .....	伊藤 稜威 .....	21
2019年 岩手大学訪問報告 .....	内藤千寿・佐伯勇輝 .....	23
<HPのご案内> .....	宮手 敏雄 .....	25
ラジオドラマ草創期の思い出 .....	小野寺瑞穂 .....	25
平成31年・令和元年年表 .....		26
岩手大学電気電子情報科会会則 .....		28
トピックス・編集後記 .....		29
創立80周年記念式典のご案内 .....		30
令和2年度総会のご案内 .....		裏紙

## ご 挨拶

会長 久保田賢二（昭和 42 年電気卒）



会員の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。ここに会誌「きたかみ 66 号」をお届けできますことを嬉しく思います。

昨年の総会は令和元年 6 月 15 日（土）に、盛岡城跡公園（岩手公園）近くの「エスポワールいわて」で開催され、今年度の事業はその後の理事会を経て、事務局を中心に進められております。総会に引き続いての講演会は、齊藤久昭氏（昭和 54 年電子卒）による「建築防災の現状と気象情報の利活用」と題する講演であり、毎年発生する災害に思いをいたしながら、興味深く拝聴しました。今年は穏やかな良い年でもありますようにと願う次第です。総会ではまた、令和 4 年（2022 年）

1 月 1 日に本会が創立 80 年を迎えることを記念して、令和 3 年度の総会当日に併せて、創立 80 周年記念式典の開催を計画中である旨の報告をしました。これについては本年 6 月に仙台市で開催される総会で提案することになっております。

さて、母校ではこの 3 月 23 日に卒業式・修了式が行われます。新進気鋭の正会員百数十名を新たに迎えること、まことに喜ばしいことでもあります。今春の学部卒業者は平成 28 年度に改組・設置された理工学部システム創成工学科電気電子通信コースと同知能・メディア情報コースの第 1 回卒業生、大学院博士前期課程（修士課程）修了者は改組後の第 2 回修了生、大学院博士後期課程修了者は学年進行中であり、改組前と同じ工学研究科博士後期課程修了生とのことです。卒業・修了して直ちに社会に出る方、進学して学業を続ける方、また新たな分野に進む方、健康に留意し、大いなる活躍を祈念するとともに、母校のさらなる充実・発展を願います。

平成 30 年の叙勲では、春に久保田勉氏（昭和 45 年電気卒）が瑞宝小綬章、秋に三浦守先生（昭和 37 年電気卒・岩手大学名誉教授）が瑞宝中綬章を受章されましたが、昨年の令和元年春には横山隆三先生（特別会員・岩手大学名誉教授）が瑞宝中綬章を、片方威氏（昭和 31 年電気卒）が瑞宝小綬章を受章されました。まことにおめでとございます。また昨年 5 月 30 日「長年にわたり電気系同窓会としての役割を果たし、電気系学部生の意欲的な活動を表彰する草刈賞を創設し、学生の意欲向上に貢献してきた」とのことで、岩手大学長より本会に感謝状が贈呈されました。本会設立以来、活動にご尽力、ご支援を頂いてきた皆様に敬意と祝意を表します。

本会誌 66 号では、紙幅の都合で数年延期していた仙台支部からの寄稿を掲載することができました。また東京支部には、同支部事業として数年来継続実施している母校・大学訪問の記事の寄稿を依頼し、またホームページ（HP）に寄稿頂いた小野寺瑞穂氏（昭和 29 年電気卒）による「ラジオドラマ草創期の思い出」を、紙幅の都合で序文だけですが掲載（HP に全文掲載中）させて頂きました。

ところで、本会の運営は大学入学時に頂く入会費と卒業後 10 年毎に納めて頂く 1 万円の年会費（過去 10 年分の会費）によって賄われております。年会費未納の方には振込用紙を同封しますので、事情をご賢察下さいまして、納入方お願い致します。

最後になりましたが、皆様のご健勝を祈念申し上げます。

# 電気電子通信コースの近況

システム創成工学科

電気電子通信コース長 向川 政治

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

今年度は、5月に元号が平成から令和に変わり、新しい時代の始まりを迎えました。岩手大学においても、今年は節目となる年であり、本学は創立70周年を迎え、今年10月19日には第一体育館にて記念講演会と記念式典が行われました。記念講演会では本学卒業生で2018年芥川賞受賞者の若竹千佐子氏による対談形式講演会が行われました。記念式典では、本学70周年を記念した記念歌「虹の翼」（作詞：照井翠、作曲：大場陽子）が初演されました。

理工学部は1939年創立の盛岡高等工業学校から数えて80周年を迎えました。5月17日には復興祈念銀河ホールにて創立80周年記念講演会が行われ、岩手県知事の達増拓也氏による「岩手のこれからの10年における展望と岩手大学理工学部への期待」と題した記念講演が行われました。また、今年度は大学院博士課程の改組が完了し、学部・修士課程・博士課程のすべてが新しく変わりました。

電気電子通信コースでは、今年度4月には、69名の学部生、3名の編入学生、36名の修士課程学生、1名の博士課程学生を新たに迎えることができました。学部は、平成28年の改組から今の形のコースとなって4年目となりますが、元号が令和と改まったこの節目の年に改組後はじめての卒業生を社会に送り出すこととなります。本コースの教員につきましては、4月から電子システム分野に村田健太郎助教が着任しました。また、9月には電気エネルギー分野の高橋克幸助教が准教授に昇進されました。現在本コースは、教授7名、准教授6名、助教4名の17名のスタッフで、教育および研究活動を行っております。

本コースで恒例のソフトボール大会は、5月23日～24日に実施されました。準々決勝はAコートで高木・高橋研 vs 向川研、Bコートで本間・村田研（幹事研究室） vs 長田・阿部研が争い、優勝は高木・高橋研、2位は本間・村田研、途中ジャンケンで勝ち上がった向川研は

3位でした。

本コースの今年度の進路については、大学院進学率は他大学を含めて約5割となり、例年に比べて多少少なめとの印象ですが、他のコースに比べれば依然高い数字を保っています。また、就職状況は、例年通り、電力、電機、通信など、幅広い分野に就職する傾向があり、電気電子情報科会の先輩方のお力添えもあって、大学院生も学部生も好調です。学部の就職割合としては約5割と例年比でやや高めですが、人数は母集団の縮小から数名少ない状況です。

本コースでは「電気電子工学専門研修（旧社長実践学特別講義）」を、2年後期から3年前期にかけて実施しています。今年度は、ソフトクリエイティブホールディングス 阿部様、日本電子部品信頼センター 塩野様、日本電信電話村上様、竹中工務店 山崎様、アイオー精密 鬼柳様 阿部様、アイシン・ソフトウェア 中村様、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング 盛一様 佐々木様にご講演いただきました。講師の方々に深く感謝申し上げます。まだ2年生のためか、話題のレベルについていけない（寝てしまう）学生もおりましたが、大学では聞けない貴重な話を聞くことができ、今後の糧になると思います。

9月には恒例の3年生の工場見学が実施されました。県内見学は、本学COC推進室と岩手県商工労働観光部の協力で、株式会社デンソー岩手、アイシン東北株式会社、東芝メモリ株式会社を訪問させていただき、38名が見学に参加しました。関東方面の見学は、多くのOBや人事関係者の歓待のもと、東芝エネルギーシステムズ株式会社、アンリツ株式会社、アズビル株式会社、東洋電機製造株式会社を訪問させていただき、33名が見学に参加しました。ご対応下さった関係各位に厚く御礼申し上げます。

最後になりますが、教職員一同、魅力ある大学、コースになるように努力していく所存です。今後とも、本電気電子通信コースの教育・研究活動等に、ご理解とご協力並びに会員の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

# 知能・メディア情報コースの近況

システム創成工学科

知能・メディア情報コース長 藤本 忠博

電気電子情報科会会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。令和元年度の本コースの近況をお届けします。

平成28年度の改組により知能・メディア情報コースが誕生してから4年目となりました。今年度は、初年度の入学生が最終学年となり、新たに63名の新生を迎えました。

当コースには、現在、教授5名、准教授8名、講師1名、助教3名の計17名が所属し、IT技術を支える情報工学を専門とした教育・研究を行っております。ソフトウェア、ハードウェア、ネットワークなどに関する基礎をしっかりと教えるだけでなく、情報工学の技術者にとって重要なプログラミング技術のスキルアップのため、毎学期で継続的にプログラミング関連の演習を行うなど、実践的なカリキュラムを提供しています。また、学生の自主性や協調性を養うための課題解決型学習の科目、さらには、キャリア教育を目指したセミナーを実施する科目も導入しています。

今年度は、研究面では、学生や教員による学会発表等において、以下のような受賞がありました。

- [1] 情報処理学会全国大会 学生奨励賞：内海 熙大，岡安克也，江幡弘道，野田裕介，伊藤孝徳，金天海，力学系学習木を用いた火災・非火災検出手法に関する研究，2019年3月
- [2] 情報処理学会東北支部大会 学生奨励賞：諏訪光輔，佐藤葉介，金天海，出澤純一，菅原志門，菅原康滉，和田智博，坂本義弘，菅野重樹，寧霄光，赤木哲也，太田康裕，生産性と安全性を両立した協働ロボットのシステム構築，2019年3月
- [3] 芸術科学会主催 NICOGRAPH 2019 優秀論文賞：Xin Lu, Chunyuan Li, Tsutomu Kinoshita, Akio Kimura, and Kouichi Konno, A Study

on 3D Face Similarity by Point Cloud Based Metric for Japanese Terracotta Figurines (Haniwa), 2019年11月

また、組み込みソフトウェアによるロボットの自動制御 AI 技術を競う ET ロボコンにおいて、平山貴司講師が指導する本コースの学生を主要メンバーとしたチーム「がんちゃん+X」が東北地区大会で優勝し、全国大会に出場しました。全国の企業や大学の259チームから勝ち上がった14チームが競うデベロッパ部門アドバンストクラスにおいて総合成績4位となり、実装技術の優れたチームに送られる TOPPERS 賞を受賞しております。

国際交流活動も活発に行っております。学振の二国間交流事業として、モンゴル国立大学、西北農林科技大学（中国）と研究シンポジウムを開催しました（岩手大学70周年記念行事と共催）。また、JSTのさくらサイエンスプログラムにより、モンゴル、中国、タイ、台湾などの学生と交流しています。さらに、JASSOの国費留学生優先配置プログラムに採択されております（2020年から3年間）。その他にも、多くの交換留学生や研究生を受け入れております。

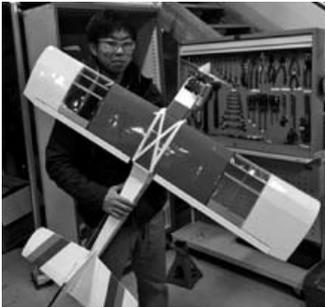
教職員の構成については、金天海准教授が今年度いっぱいでご退職の予定です。岩手大学に着任されてから、常に活発な研究活動でご活躍されていただけに、非常に残念なことです。新天地でのご活躍を願っております。

当コースが関わる分野では、人工知能の技術が世の中を大きく変えつつあり、また、小学校からのプログラミング教育必修化が実施されることから、国の将来を担う人材の育成が大きく期待されるものと思われまます。この期待に応えられるよう、教職員一同、努力をしておりますので、会員の皆様には益々のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## — 草刈賞 —

# 第16回（平成30年度）草刈賞受賞者

### 草刈賞を受賞して



草刈賞の受賞から1年が経ちます。伝統ある草刈賞を頂き、大変光栄に思っております。

受賞のきっかけは航空研究会 décollr という同好会の活動で

した。読売テレビ開催の鳥人間コンテストを目指す同好会で、2015年の岩手大学初フライトの年に入部しました。その年の大会では他チームとの実力差を痛感し2016～17年には技術力や組織力の向上のためにがむしゃらに試行錯誤を重ねました。工学とは何か、ものを作るとはということなのか、エンジニアリングとは、エンジニアとは何なのか。活動を通し必死に取り組む中で沢山の事を考えました。活動で得た経験は、技術者としては小さいものかもしれませんが、個として、何を考えどう生きるべきか

電気電子工学コース 菊池航平

を真剣に考える大きな機会になりました。

卒業後は電子機器メーカーに就職しております。分からないことも多いですが、エンジニアとして中途半端なものづくりはしてはいけなさと勉強の毎日です。これから2年目に入りますが、今後も初心を忘れず挑戦心を持ち、一人前を目指していこうと強く決意しています。

末筆ながら、大学生活を支えて下さりました先生方、学友、地域の皆様に感謝申し上げます。大学生活で得た学びを礎に、今後も精進してまいります。



### 草刈賞を受賞して



私が草刈賞を受賞して、一年が経とうとしています。改めて伝統ある草刈賞を頂き、大変光栄に思っています。また、時に厳しく、時に優しく

ご指導いただいた先生方へ深く感謝いたします。

私は岩手大学大学院に進学してマイクロ波による果実の品質検査手法の研究に取り組んでいる一方、草刈賞の受賞のきっかけにもなったさんさ踊りの活動も継続しております。平成元年度は念願の最優秀賞を受賞することができました。さんさ踊りへの参加は学部1年から5年間継続しておりますので、サークルを最上級生と

電気電子工学コース 村山祐樹

して盛り上げながら今年度も頑張っていきたいと思っております。学業面では、電気学会東北支部優秀学生賞を受賞することができました。草刈賞受賞後においても荣誉ある賞に恥じないよう気持ちを引き締め、学業に引き続き真摯に取り組むとともに、残り少ない学生生活も意欲的に過ごしていこうと思っております。

学生生活を学業だけに費やすのではなく、委員会やサークルなどの活動にも積極的に参加していくことの意義は多々ありますが、私は様々な経験を積み重ねることができるというのが一番の利点だと思っております。後輩にはぜひ多くの物事に挑戦し、より多くの経験を積み重ねてほしいです。

## 建築防災の現状と防災気象情報の利活用

盛岡ニッタン株式会社代表取締役、気象予報士  
齊藤 久 昭（昭和 54 年電子卒）



本日の講演は二部構成とし、第一部は「建築防災設備の現状」と題し、現在従事している自動火災報知設備の概要をお話します。第二部では 10 年程

前に取得した資格の「気象予報士」の立場から、最近頻発する気象災害に対応するための「防災気象情報の利活用」について、気象観測方法及び種類から、今年 5 月 29 日から運用されている「5 段階の警戒レベル別防災気象情報」についてお話しします。

### 【第一部】「建築防災設備の現状（主に自火報設備について）」

業務に関係する法律は建築基準法、電気事業法、ガス事業法、消防法などですが、中でも「消防法」が中心です。消防法では「防火対象物の「関係者」に各種「消防用設備等」の設置・維持を義務付けています（図①）。

**現在の業務に関係してくる主な法律**

**建築基準法**

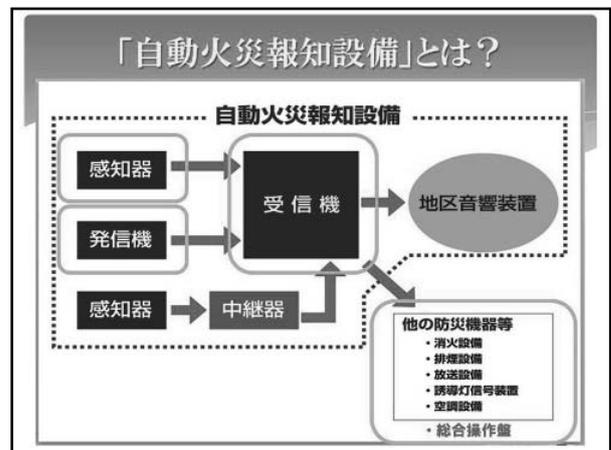
- \* 電気事業法（電気設備に関する技術基準）
- \* ガス事業法
- \* 消防法

**この中でも特に 消 防 法**

消防法では防火対象物の所有者、管理者又は占有者に対して「消防用設備等」の設置・維持を義務付けている

図①

その中から「自動火災報知設備」に焦点を絞ります。設備の構成として「感知器」「発信機」「中継器を介した感知器」からの信号を「受信機」で受信し、「地区音響装置」を鳴らして在館者に火災を知らせ、さらに他の設備に移報信号を出します（図②）。



図②

火災を覚知する為には火災発生時に生成される「熱」「煙」「炎」のいずれかを捉えればよく、現実的には熱感知器、煙感知器、炎感知器の 3 種類があり、熱感知器としては差動式、定温式、補償式が、煙感知器としては光電式、イオン化式が、炎感知器としては赤外線式、紫外線式があります。また近年は感知器と中継器の間を無線式とした方式が登場し、歴史的建造物など傷を付けたくない既存建物や仮設のテントなどに設置されています。

発信機は最近表示灯と一体化したものが登場し、地区音響装置は原則として「全館一斉鳴動」

－ 令和元年度総会特別講演 －

ですが、発災時出口に人が殺到しての二次災害防止のため、一定規模以上の建物には「直上階鳴動方式」が採用されています。受信機には大きくP型とR型の2種類があり、小～中規模にはP型、中～大規模には様々な先進機能を持つR型が使われています。最近登場して来た付帯装置として「光警報装置」があります。これは火災発生を音響では伝えきれない聴覚に障害がある方達に光の明滅で知らせる方法で、大規模な駅や空港に設置されるようになってきました。

次に消火設備ですが、代表として「スプリンクラー設備」があります。この設備の特長は何と言っても人の手を介在しない「自動消火」で、通常のヘッドはこのような形状の物が使用されています（図③）。最近になって、ヘッドに物が



図③

ぶつかって壊れたり地震等で配管に亀裂が入ったりしても漏水しない「V S スプリンクラー」が開発されました。大規模建築物にはこれまで説明した設備以外にも様々な設備が設置されます。それら多種多様な設備を迅速かつ効率的に機能させるため一定規模以上の防火対象物には「総合操作盤」の設置が義務化されます。

第一部の最後として、身近な「住宅用火災警

報器」についてお話しします。消防庁の調査によると住警器を設置したことにより死者の発生数が約4割減、焼損床面積と損害額は約半減と、その効果は歴然としています。設置が義務化されて約10年が経過し、その時取付けた大多数が電池式だったはずで、そろそろ買換え時期かと思います。設置日を確認し次のようなこと（図④）に注意して、安全に暮らしていただきたいと思います。

**住警器はこんなことを注意しよう**

- ・ 10年を目安に機器まるごと交換を
- ・ 設置したら設置日を記入しよう
- ・ 月に一度は作動試験を

などなど

**これで第1部はおわりです…**

図④

### 【第二部】「防災気象情報の利活用」

最近雨の降り方が変わってきたとよく耳にします。今年5月18日、屋久島では半日で291mmの猛烈な雨が降り、昨年も西日本から東海地方にかけ「平成30年7月豪雨」がありました。この豪雨では気象庁や関係機関から段階的に防災気象情報が発表されたにも拘わらず、住民の避難行動に繋がっていなかったとの指摘があり、国は伝え方に関する検討会を設置しました。そして要因の一つとして発表内容が複雑で分かりづらいとの反省から、気象庁は先月5月29日から新しい方法、警戒レベルを5段階に分けた情報での運用を開始しました。

気象情報作成のスタートとなる「気象観測の方法」と「5段階の警戒レベル別情報」を中心にお話しします。まずは準備段階として現在の予報の根幹となっている「数値予報」について説明します。数値予報とは全球大気を格子で区切り、格子点ごとに将来の気象要素を物理学方程式によりコンピュータで計算して予測する方法です。

この時用いる力学方程式は次の通りです（図⑤）。数値予報開始当時はIBM704でスタート、この時の演算速度を1とすると現在使われているスーパーコンピュータの処理能力は10の12乗倍の性能を有しています。次に気象の観測方

### 数値予報に用いられる力学方程式

1. 運動方程式（運動の法則）
2. 状態方程式（気体の法則）
3. 連続方程式（質量保存の法則）
4. 熱力学方程式（熱量保存の法則）
5. 水蒸気の式（水蒸気量保存の法則）

これらについてスパコンで計算しますが、初代コンピュータは科学計算用としては、我が国の官公庁では初めての物でした。（昭和34年）

図⑤

### 地上気象観測 AMeDAS(アメダス) (Automated Meteorological Data Acquisition System)



図⑥

法は多種多様な方法がありますが、最も身近なのがアメダスと呼ばれる地上観測装置で（図⑥）、全国に雨量だけでも含めると約1300箇所、岩手県内には50箇所あります。そのうち気温や風向風速など複数要素の観測地点は36ヶ所で、これが県内ニュースで「県内36箇所の観測地点では…」の基となっています。

高層気象観測はラジオゾンデ観測地点が全国に16箇所あり、東北地方では秋田地方気象台一個所だけで、毎日午前・午後の9時の2回、世界中一斉に観測しています。上空の風はウィンドプロファイラという装置で観測し、こちらは全国33箇所にあり県内の宮古でも観測しています。そのほか気象衛星や気象レーダーでも観測しており、それら様々な観測データは品質管理された後、スーパーコンピュータに入力されて予報を作成、さらに予報官によって地方特性等が加味されて発表されます。その際規定値以上の数値が計算された時は注意報や警報を発表して住民に注意を呼びかけます。

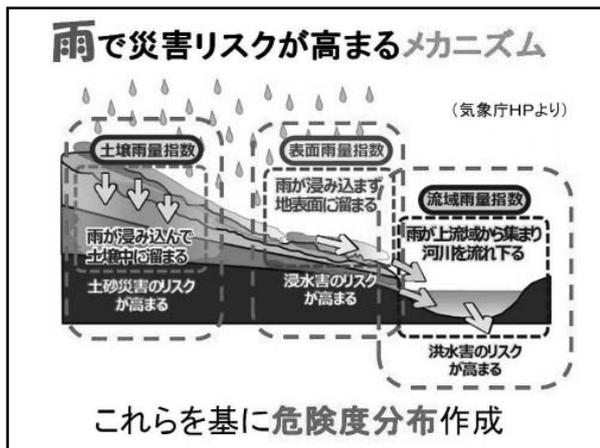
次は本日のメインテーマというべき5段階の警戒レベル別情報についてです。これまでは大雨などに関する気象情報と、避難に関する情報や川の氾濫などに関する情報はバラバラに発表されていましたが、これを5段階に分けそれらを色分けして発表することにしました。初期段階は白、警戒レベルが上がるに従い黄、赤、薄い紫そして濃い紫へと変化します。

従来の警報クラスがレベル3の赤で高齢者等の避難開始を促し、薄い紫のレベル4は土砂災害警戒情報クラスで対象地域の全員が避難することを警告します。濃い紫のレベル5では特別警報発表段階に相当し、既に様々な災害が発生

－ 令和元年度総会特別講演 －

している可能性が高いため屋外への避難は却って危険なので屋内での垂直避難、山など傾斜地に近い部屋からは離れるなど「命を守る最善の行動を」とるように警告します。このように警戒レベルを色分けにすることにより現在の状況と取るべき行動を分かり易く伝える工夫はされましたが、これらはまだ受け身の情報です。災害に遭わないため、より積極的に情報を捉える方法として「危険度分布」を入手することが大事です。

大雨によって災害リスクが高まるメカニズムは次の通りですが（図⑦）、これらの指数を基に3種類の危険度分布が作成され、避難のタイミングをつかむ情報として利用します。一つ目



図⑦

は大雨警報発表下での「土砂災害警戒判定メッシュ情報」で、現在は5km格子ですが6月下旬からは1km格子に高解像度化され、避難が必要な地域の細分化が可能になります。二つ目は大雨警報発表下での「浸水害危険度分布」で、1km格子で1時間先までの予測が発表されます。三つ目は「洪水警報の危険度分布」で、この画面（図⑧）は岩泉町が平成28年8月の台風10号で大きな災害を受けた時の分布図で、この災



図⑧

害が契機となって平成29年7月4日から新たに全国的な情報としてスタートし、現在1km格子で3時間先までの予測をしています。

これらの危険度分布はスマホやパソコンでも簡単に見ることができます。盛岡地方気象台ホームページ画面の「危険度分布」を指定すると各種危険度分布選択ボタンが表れ、見たいボタンを押し、地図上から地域を拡大して閲覧します。

今回は主に大雨による災害についてお話ししましたが、他にも台風、地震、大雪など様々な要因で災害は発生します。現在は多様なツールで情報が提供されていますので、自ら積極的に最新情報の収集に努め、状況に応じた行動をとることが極めて重要になります。また7月から気象庁は民間事業者の協力を得て、電子メールやアプリ等で希望者に「危険度分布の変化」を通知するプッシュ型のサービスを展開していく予定です。「自分の命は自らで守る」ことを肝に銘じて生活して行くことが重要です。それができて初めて他の人の命も守ることに繋がります。

## －仙台支部からの寄稿－

### 通信 42 年と共に

数 藤 崇（昭和52年電気卒）



昭和 52 年 3 月岩手大学工学部電気工学科太田原研究室を卒業し、同年 4 月 電電公社（本社：東京）に就職した。とき西暦 1977 年から 42 年が経過し、現在 2019 年 12 月、私は満 65 歳・年金受給年齢となった。指導いた

だいた太田原先生も“米寿の年齢”とのこと、先日盛岡で開催された“お祝の会”に出席させていただいた。逆算してみると私が学生のときは、太田原先生の年齢は 45 歳ということになる。今の自分より 20 歳も若かったのだ……。近年とくに、このような年齢を逆算して思うことが多くなった。

秋田の実家に電話がついたのは、私が大学時代でした。当時、電電公社では「全国自動即時化」を目標とし、「全世帯への電話の普及」と「すぐ繋がる電話」、そして「積滞解消」が大きな事業テーマでした。当時の電話（電話機）は大変大切なものであり、玄関に置かれ、となり近所への取次も行われていました（これが家庭で電話機が玄関に置かれた理由です）。

電電公社の技術系として採用され、このような国家目標を経済的に実現するため、AM・FM 変調方式による多重通信装置を開発し、導入試験のため全国各地を行き来しました。この頃から中継伝送方式がアナログからデジタルに変化し、さらに“電気通信”から“光通信”（光ファイバー）へと発展していきました。その後全世帯への“FTTH”：fiber to the home、端末は PC をベースとした“情報端末”による情報化社会の実現、そして固定系から移動系（ポータブル）の“スマートフォン時代”、“IoT・AI 時代”、“5G 時代”へと発展し、単なる「人と

人の通信」ではなく、「社会生活基盤」そのものになってきました。

1 人の人間にとっての 42 年という年月、人それぞれに時と共に進化してきたと思います。この積み重ねが「歴史」なのでしょう（学校教科の「歴史」の意味を今改めて感じます）。

近年大学の学部学科に、「電気」「電子」や「機械」「金属」etc の直接名称が使われなくなったことにも時代の経過を感じます。大学の教育課程も卒業生が即社会基盤の中で活躍できる人材を輩出できるかということが大きな評価となるとの判断であり、採用する企業側のニーズにも合ったものとなっています。

私も、会社の採用面接で学生に学科名の主旨を説明させることもありますが、この学科名に自分の意志・情熱を如何ほど持って自己 PR ができるかが採用判定に大きく影響します。42 年の時間は、大学の役割にも大きく影響して来たということです。

2020 年は東京オリンピック夏季大会です。スポーツの祭典を支える情報通信の大イベントでもあります。1964 年の東京大会から 56 年、1998 年長野冬季大会から 22 年になります。私は長野冬季大会で地元 NTT の通信設備構築の責任者として関わってきました。オリンピック情報基盤に求められるものは、絶対的な信頼性です。大会期間中競技ライブ映像に切り付けになりますが、大会の基盤となる膨大なオンライン DB システムと情報 NW が大会運営の成功を支えています。これも経験上の体験です。

10 歳の時と 66 歳、この時間差を改めて、「我が人生」と、「情報通信の進化」として味わいたいものです。

42 年間の持つ意味を考えてみました。「時間は、強烈な進化と推進力の源です」。

## 2019 年訪越の概要

東北発電工業株式会社

田 中 利 光 (昭和53年電気卒)



2019年9月にベトナム(越南)を1年半ぶりに訪れたのでそのときの状況を紹介します。私は2001年から2年間ハノイに駐在していたことがあり、それから17年ほど経とうとしている。今回の訪越は駐在からの帰国後5度目となる。

まずは、皆さんにあまり馴染みのない東南アジアの南北に長い国、ベトナム社会主義共和国の概要から紹介したい。国土面積は日本の約87%、総人口は約9,500万人で日本の約75%である。首都は北部に位置するハノイ市であるが同国においては第2の都市で人口約800万人である。同国最大の都市は南部に位置するホーチミン市(旧サイゴン)で人口約900万人である。ハノイは政治の中心、ホーチミンは経済の中心といわれる。第3の都市は中部に位置する人口約120万人のダナン市であり近年日本からの直行便が就航し日本からの観光客も増えている。もちろん、ハノイやホーチミンへも直行便が就航している。

ベトナム国内の観光地の代表的なものといえば、北部では海の桂林と呼ばれる世界自然遺産のハロン湾、南部ではベトナム戦争中に南ベトナム解放民族戦線によってゲリラ戦の根拠地として作られた全長200kmの地下トンネルネットワークであるクチトンネル、中部では16世紀半ば以降鎖国までの間行われた貿易により日本人が1,000人ほど住んでいたといわれる世界文化遺産の古都ホイアンである。他にもいろいろあるので興味のある方は旅行ガイドブックを参照願いたい。

ベトナムは山脈や海に面している国であるため、古くから漁業や農業といった一次産業が盛んだが、現在主流の産業は鉱業、実はこの国で

は石油や石炭、天然ガスなどの化石燃料やスズといった金属が多く採取され、多くの国に輸出されている。それから、皆さんご存知だろうか、コーヒー豆生産量ではこの国は世界第2位なのである。

今回の訪越はプライベートで仙台⇒仁川(インチョン)＜乗換＞⇒ダナン⇒ハノイ⇒仁川＜乗換＞⇒仙台のルートであった。仙台⇒ダナンは乗換時間3時間半を含めて約11時間。

ダナンでゆっくりしたのは今回が初めて、ホイアンは2度目の訪問である。ダナンはハノイ、ホーチミンほどの街の規模ではないため交通量もさほどではない。ダナン観光ではダナン大聖堂は外せない。外壁がピンク色をしておりなかなかユニークである。ホイアンは日中よりも夜散策するのがお勧めである。暗闇に色々のランタンがよく映える。昔の日本人が造ったとされる遠来橋(別名、日本橋)も人気観光スポットである。

ハノイはダナンに比べ気ぜわしい感じがする。駐在赴任時ハノイに着いて驚いたのはバイクの洪水であった。当時道路に信号は殆どなく車の台数は今ほど多くはなかったが、どの交差点でも四方からバイク、車がなだれ込み、早いもの勝ちであった。直進優先の概念はない。最近では交差点に信号が増えており、歩行者用信号が備え付けられているところも見受けられるが、青になって歩き始めても渡り切る前に赤になる(?)。市の中心部にはホアンキエム湖という湖があり、その周辺を観光するには6人乗りの観光電気自動車(ゴルフカートみたいなもの)が便利である。また、ダブルデッカーバスで市内を周遊するのもおもしろい。

ベトナムでは交通渋滞や大気汚染防止のため、国内初となるハノイの中心部を走る都市鉄道(地下、高架)が2011年に着工している。この都市鉄道は中国企業が請け負っている。当初は

2017年9月に運行を開始する予定だった。しかし延期が繰り返され、直近では2019年4月に運行を開始するとしていたが、実際の運行開始までは、さらに遅れる見通しとなったとのことである。東南アジアの工事ではよくある話である。

今回の旅行ではどこへ行っても韓国人が多く見受けられた。ハノイの超高層ビル2棟（72階建、65階建）はすべて韓国資本のものである。日本系企業も頑張っている。駐在当時なかった

イオンモールがハノイで2箇所目の営業を開始したと聞いている。

ベトナムはASEAN加盟国のなかで特に経済発展が遅れているCLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）諸国の一つに数えられるが、これから更なる発展が期待される。

今回の訪越の話は紙面の都合で駆け足となってしまうが、興味のある方は1度ベトナムを訪れてみてはいかがだろうか。

## 仙台市地下鉄東西線開業4年を迎えて

仙台交通株式会社（元仙台市交通局）

田代良二（昭和55年電気卒）



### 1 はじめに

地下鉄東西線は平成27年12月6日に開業して昨年4歳を迎えました。開業前に東西線の計画概要などを本誌に寄稿する機会をいただきましたので、その後の状況について紹介させてい

たきます。

東西線は既存市街地の再開発を誘導する交通機関の役割を担い、西は東北大学の青葉山キャンパス付近から仙台駅前を通り東側は仙台バイパス沿いの物流基地である荒井地区まで約13km、30年前に開業した南北線と合わせ30km弱の地下鉄網が整備されることになりました。JR線も含め仙台駅を中心に八方面の鉄道網が完成いたしました。

### 2 効果

鉄道網の中心が仙台駅になったことから商業の重心が駅前に移り、街に賑わいを与えています。また仙台駅以外の東西線沿線にはマンションなどの立地が進んでおり、地価が上昇しています。

利用客も開業当初約5万人から1.5倍増の約8万となっております。この理由として市内の大学や高校を対象とした「学都仙台学生フリーパス」の利用者が増えたことが挙げられます。

月一万円ちょっとで地下鉄と市営バスがほぼ市内全域が乗り放題のパスで、親御さんはお子さんを安全に通学させられるこのパスを重宝しているようです。特に坂道のきつい東北大学の学生さんに利用者が多いようです。

### 3 仙台支部見学会

これまで支部総会の開催日に地下鉄と沿線施設との見学を組み合わせた見学会を3回実施し、リニアモーター、操舵台車、自動運転装置など間近にご覧になっていただき日本の鉄道技術の優秀さを肌で感じていただきました。また、震災遺構である荒浜小学校の見学を通して改めて津波の恐ろしさを実感することもできた見学会でもありました。

### 4 今後の課題

利用者数については当初の計画をクリアし、順調な滑り出しといえます。東西線開業の効果は南北線にも及び、相乗効果で利用者数も増えており、南北線側の車両の増強も計画しているところです。

仙台に地下鉄の計画が打ち出された50年前には、100万都市でもない仙台には負の遺産になると揶揄する声もあったのですが、現在では先見の明があったと評価をいただいております。会員の皆様も機会がありましたら是非足を運んで下さい。

## 在学中の思い出と近況

戸 羽 幸 江（平成12年電気電子卒）



月日が経つのは早いもので、岩手大学工学部電気電子工学科を卒業して間もなく20年の歳月が経とうとしています。冬が近づくと、盛岡の厳しい寒さと、雪化粧の岩手山の風景、同時に充実した日々を送った大学生活が昨日の事に思い出されます。

今では理系女子が「リケジョ」と呼ばれてイメージアップ?されており、各大学の工学部の女性比率も上昇してきているようですが、当時は工学部といえば男性のイメージが根強く、学科の中に女性は3名しかおりませんでした。これから始まる大学生活に、期待に胸膨らませると同時に、4年間この環境でやっていけるのかと当時は不安に感じていました。

大学4年で電子デバイス工学に興味を持ち、馬場・柏葉研究室にて、1年間ご指導を頂きました。結晶体の作成や、計測器の使い方、当時発売されたばかりだったWindowsOSでのデータのまとめ方等々、先生及び先輩方には丁寧に教えて頂き、現在のコンピューターの基礎を築く事ができました。本当に感謝しています。また、研究だけでは無く、研究室対抗ソフトボール大会（女子が出場している研究室は大きなアドバンテージあり!）や、高松の池でのお花見、キャンプ等を通して学科内での親睦を深める事ができました。卒業する時には入学した頃の不安は全て無くなっており、むしろ研究室や学科のメンバーと離れてしまう寂しさがあったのを覚えています。

大学卒業後は通信設備会社に就職をし、ネットワーク設備の営業職を経て、現在は会社の情

報システム部門にてセキュリティやネットワークの管理業務を行っております。昨今、企業における情報セキュリティ対策は必要不可欠であり、一人の軽はずみな行動が一步間違えると企業の情報漏洩につながり、会社の存続さえも危ぶまれる時代となっております。日々の監視と新しい技術の習得、また定期的な社員教育を行う事で、システムと人の両面で会社のセキュリティ確保に努めています。

プライベートでは、健康と体力維持の為、ランニングとトレッキングを10年程前から続けています。元々両親が山登りをしており、幼い頃からよく岩手の山々に連れて行って貰っていましたが、中学に上がった頃から思春期だったのもあり、しばらく山からは離れていました。社会人になり、同じ趣味を始めてしまうのは、やはり親子なんだなあと改めて思います。岩手山にも過去数回登頂していますが、学生時代にいつもほんやり眺めていたあの雄大な山頂に自分がいるのかと思うと不思議で、また格別な嬉しさがありました。趣味を通じて、仙台に友人も増え、充実した日々を過ごしています。

仙台支部では、通信・電力分野において第一線で活躍されていた先輩の方々とお話をさせて頂く機会も多いのですが、時代は数十年違っても技術の根本は同じであり、共感でき且つ学ばせて頂く事が多く、貴重な時間を過ごしています。また、総会での先生方の講話においては、研究が今後社会にどのような形で応用されていくか想像を膨らませながら聞く事ができ、非常に興味深く聞かせて頂いています。支部での活動を通して、いつか同期メンバーや先輩方と当時の思い出話や、近況報告等お酒を酌み交わしながらお話できる日を楽しみにしています。

## 令和元年度東京支部報告

東京支部長 狩野利之（昭和61年電子卒）

### 1. 令和元年度東京支部大会開催

元号が令和となってから最初の東京支部大会は、6月29日（土）に、新宿・サンパークホールにて開催されました。大会の開催時期を10月から6月に移しての2回目の開催となります。

今回は昨年より多い61名の方々に参加いただきました。うち女性が6名、平成以降の卒業生が25名、また、最年長は昭和23年卒の石井宗典先輩（93歳）、最年少は平成31年卒の加藤万由子さん（23歳）で、年齢の差は70歳と幅広い世代の方々にご参加いただき、当科会の歴史を感じることとなりました。

大会は、はじめに久保田賢二会長、一祐会としてご出席いただきました電気電子通信コース長の向川政治先生からご挨拶をいただき、続いて支部の活動の報告、会計報告、次に新年度に向けて、新役員として、内藤千寿副支部長（平成6年電子卒）と佐伯勇輝事務局（平成4年電気卒）の2名を選出し、活動計画と予算が原案どおり了承されました。

講演会は、向川先生より「プラズマ環境下における基板温度測定（および大学の近況など）」と題してご講演をいただきました。ご専門の内容、および大学での取り組みなど、時間ぎりぎりまで盛りだくさんの内容をお話いただきました。

懇親会は、集合写真の撮影ののち、参加者の皆さんにも会場づくりをお手伝いいただき、今年もおいしい日本酒を5種類準備して始めました。

最年長の石井様の乾杯につづいて、恒例となりました三曲部OBの皆さん5名による素晴らしい尺八の演奏、その音色の深さに参加された皆さんが聞き惚れていました。

にぎやかなご歓談の中、あっという間に後半になり、これも恒例となりました、歌い継ぐ歌（学生歌、同袍寮歌、逍遙歌2曲）を寺井相談役（昭和41年電気卒）のリードのもと、全員で声高らかに合唱し、中締めとなりました。



中締めは、盛岡からご参加いただいた村田崇さん（平成2年電気卒）のウィットに富んだご発声をいただき、盛会のうちにお開きとなりました。

また、昨年に引き続き、本年度も、支部大会には参加できないが、活動や運営に協力したいという支部会員の方々の声をいただき、賛助会費をお願いしたところ、ご欠席の方も含め81名の方からご賛同、ご支援をいただきました。誠にありがとうございます。心より御礼を申し上げます。

### 2. 令和2年度の科会東京支部大会は、一祐会総会と各科会東京支部との合同開催

令和2年度は、一祐会総会が東京で行われることになり、当支部大会も他科会の東京支部と連携のもと一祐会総会と合同開催といたしました。東京支部会員の方には例年同様個別に郵送にてご案内いたしますが、他のエリアにお住いの皆さまも大歓迎ですので、是非ご参加ください。

#### 令和2年度東京支部大会のご案内

- ・日時：令和2年5月16日（土）13時15分～18時
- ・場所：AP東京八重洲（受付は11階）  
東京都中央区京橋1-10-7KPP八重洲ビル  
03-6228-8109
- ・会費：5,500円、3,000円（女性&卒業後10年以内の方）
- ・申込：東京支部会員の方には郵送にてご案内します  
他支部の方は東京支部HPよりお申し込みください

[http://iueei-tokyo.main.jp/?page\\_id=1188](http://iueei-tokyo.main.jp/?page_id=1188)



スマホの方はQRコードより直接入力フォームにアクセスいただけます。

## 《支部だより》

# 令和元年度仙台支部報告

仙台支部長 数 藤 崇（昭和52年電気卒）

●平成31年（令和元年）の支部活動は、1月19日（土）の役員会+新年会からスタートしました。役員会では年間スケジュールの確認と4月に予定される「長寿を祝う会」の進め方について議論し、その後新年会を行い、情報交換と親睦を深めました。

新年会には役員会メンバーのほか、大先輩の昭和19年電気卒の山崎克己さん他4名：古村さん、小原さん、石塚さん、五十嵐さんを加え、総勢13名で楽しい時間を過ごしました。

●4月13日（土）は、役員会にて6月開催の支部総会の準備事項を確認した後、第11回「長寿を祝う会」を開催いたしました。

対象者 昭和38年卒の5名の方にご案内したところ、3名の参加をいただきました。

出席者 斎藤健さん(S38電気)、浦田寛さん(S38電気)、岡本康之さん(S38電気)

●6月22日（土）は、本部から来賓として久保田会長をお迎えし、ハーネル仙台にて「仙台支部総会」を開催しました。

議事として、H30年度事業報告・決算報告及び令和元年度事業計画等の審議が行われ全議案の議決をいただきました。

総会に引き続き2名の講師による「講演会」を開催し、終了後 久保田会長を交え、懇親会を開催いたしました。

### ・「講演1」

「知能・メディア情報コースの教育・研究の取り組み」

岩手大学理工学部 教授 藤本忠博氏

### ・「講演2」

「企業における情報セキュリティ対策」

(株)TTK 開発研究センター 戸羽幸江氏  
(仙台支部 会員)



《支部だより》

## 令和元年度盛岡支部報告

盛岡支部長 宮手 敏 雄（昭和44年電気卒）

### ＜横河電子機器株盛岡事業所見学会＞

11月1日（土）に盛岡支部会員11人が参加し、盛岡市上飯岡の横河電子機器株盛岡事業所を訪問しました。

同社執行役員の田代亨盛岡事業所長（岩大工学部金属工学科卒）から歓迎のご挨拶に続いて、伊東寿勝（H1年電気卒）本社第3営業本部長から、同社の沿革、主力製品のジャイロコンパス、電磁ログ（船速計測システム）、大型船舶用自動操舵装置などの説明を聞きました。同事業所は総従業員約180名の規模で、岩大工学部卒業生18名も活躍しています。

同事業所は開発、設計から始まり、潮風に強い純アルミニウム製大型筐体の鋳造から、完

成までの一貫工場。鋳造工場、船速センサー試験用大型水槽、制御盤組み立て棟など、紅葉真っ盛りの広い所内を見学しました。

場所を変えた茶会にも参加者全員が参加。初めて手に持ったジャイロコンパスの転輪球（誘導モーター）の慣性力の強さに驚き、盛岡にも開発から製造まで担う大規模事業所が活躍していることを改めて認識。会員の近況も語り合いました。

### ＜盛岡支部主催新年会＞

盛岡支部主催の令和2年科会新年会を、1月25日（土）午後3時から、盛岡市中央通の「エスポワールいわて」で開催。会員22名が参加して「旧暦」の元日を祝いました。

久保田会長の挨拶に続き、参加最長老の太田圭一さん（S24年専卒）が元気に乾杯のご発声。暫しの懇談で喉を潤してから、立花龍一副会長の司会で、年齢差70歳に及ぶ参加者全員から3分間制限（極めて不評）のショートスピーチ。

受付を担ってくれた大学院生からは就活PR？。企業幹部世代の奮闘記、戦後間もない思い出と高齢者世代を迎えた心得まで、幅広いスピーチが続きました。中締めは卒業生で最も若い新沼崇さん（H18年電電卒）が三本で締め、学生歌の大合唱で締めくくりました。

狩野利之東京支部会長や仙台に転居した卒業生も参加いただきました。特に平成の卒業生の参加が増えたことも喜びでした。



横河電子機器株盛岡事業所見学会



新年会 令和2年1月25日

# 令和元年度岩手大学電気電子情報科会総会

令和元年度岩手大学電気電子情報科会総会は、新しい年号に変わって間もない6月15日(土)、エスポワールいわてで開催されました。

電気昭和62年卒長田洋理事の司会で始まり、電気電子通信コース長向川政治教授にご祝辞を頂戴しました。

その後、議長、書記を選出して議事に入り、全て異議なく承認されました。

総会特別講演は、電子昭和54年卒齊藤久昭氏の演題「建築防災と気象情報の利活用」でした、盛岡ニッタン(株)社長であり、気象予報士ならではの興味深い講演でした。

その後、会場を和室に移し、立花副会長の司会のもと、知

能・メディア情報コース長藤本忠博教授にご挨拶をいただき、懇親会に入りました。初めての会場でしたが雰囲気の良い和室で、美味しい料理と話に花が咲きました。



令和元年度 岩手大学電気電子情報科会総会

令和元年6月15日 エスポワールいわて

## [総会議事録]

令和元年6月15日(土) 15:00～15:50

エスポワールいわて 1F

議長：鳥谷部達雄氏(情S56卒、理事)

書記：阿部 貴美氏(電電修H20了)

木村 彰男氏(情H3卒、理事・事務局)

### ●第1号、第2号議案について

事務局より、下記の平成30年度事業5件および平成30年度決算について報告が行われた。

\*きたかみ65号発行

\*ホームページ開設・運用

\*正会員歓迎会開催(2019/3/6、参加者59名)

\*草刈賞委員会活動(選考委員6名、電電コースから2名受賞)

\*会費検討委員会活動

続いて、佐々木会計監査より監査報告が行われ、これら二つの議案については特に異議なく、拍手にて承認された。

### ●第3号、第4号議案について

事務局より、令和元年度の事業計画案(きたかみ66号発行、ホームページ運営、正会員歓迎会開催、草刈賞委員会活動、会費検討委員会活動)について説明があり、続いて、これら事業計画を勘案した令和元年度の予算案について詳細説明が行われた。

特に異議なく、拍手にて承認された。

### ●その他

久保田会長より、創立80周年記念事業を行う意向であることが述べられ、これから詳細準備していくことが確認された。

また、昨年秋・今年春の叙勲で3名の会員の受章があったことが紹介された。(三浦守氏、横山隆三氏、片方威氏)

# 令和元年度岩手大学電気電子情報科会役員名簿

(令和2年1月1日現在)

役職名	氏名	卒業(卒回)	役職名	氏名	卒業(卒回)
会長	久保田 賢 二	S 42 (気 15)	東京支部		
副会長	恒 川 佳 隆	S 55 (気 28)	幹 事	薄 衣 文 雄	S 41 (気 14)
副会長・事務局	柳 橋 好 子	S 45 (子 1)	幹 事	小 磯 巖 男	S 51 (気 24)
副 会 長	立 花 龍 一	S 61 (情 8)	幹 事	畠 山 主	S 54 (情 1)
理 事	小野寺 瑞 穂	S 29 (気 2)	幹 事	吉 澤 和 弘	S 54 (情 1)
理 事	佐 藤 匡	S 40 (気 13)	幹 事	畠 山 寧	S 59 (子 15)
理 事	吉 田 英 夫	S 41 (気 14)	幹 事	田 口 之 博	S 61 (子 17)
理 事	武 田 寿 郎	S 41 (気 14)	幹 事	山 道 隆 男	S 62 (気 35)
理 事	千 葉 則 茂	S 50 (気 23)	幹 事	富 塚 秀 樹	H02 (気 38)
理 事	國 保 章 子	S 54 (子 10)	幹 事	中 山 靖 茂	H04 (気 40)
理 事	鳥谷部 達 雄	S 56 (情 3)	幹 事	遠 藤 慎 介	H04 (子 23)
理 事	伊 東 寿 枝	H01 (子 20)	幹 事	三 浦 友 規	H16(電電院)
理 事	村 田 崇	H02 (気 38)	盛岡支部		
理事・盛岡支部長	宮 手 敏 雄	S 44 (気 17)	幹 事	岡 英 夫	S 48 (子院 4)
理事・仙台支部長	数 藤 崇	S 52 (気 25)	幹 事	池 内 達	S 50 (子 6)
理事・東京支部長	狩 野 利 之	S 61 (子 17)	幹 事	佐 藤 信	S 57 (子 13)
理事・事務局	長 田 洋	S 62 (気 35)	幹 事	佐 藤 文 昭	S 59 (子 15)
理事・事務局	木 村 彰 男	H03 (情 13)	幹 事	泉 澤 栄	S 60 (子 16)
会計監査	大 坊 真 洋	H11(電情博)	幹 事	高 橋 康 浩	S 62 (気 35)
会計監査	佐々木 眞 嗣	S 62 (子 18)	幹 事	伊 東 寿 勝	H01 (気 37)
顧問	志 田 純 一	特	幹 事	千 葉 幸 二	H04 (情 14)
顧問	佐々木 經 夫	特	幹 事	金 澤 博 昌	H06 (情 16)
顧問	藤 原 民 也	特	幹 事	鈴 木 順	H12 (電電 5)
相談役(元会長)	阿 部 長 一	S 19 (専 4)	仙台支部		
相談役(元会長)	山 崎 時 男	S 24 (専 8)	幹 事	千 葉 浩 克	S 40 (気 13)
相談役(元会長)	太田原 功	S 30 (気 3)	幹 事	田 中 利 光	S 53 (気 26)
相談役(元会長)	柏 葉 安兵衛	S 38 (気 11)	幹 事	菅 原 利 一	S 55 (気 28)
相談役(元会長)	籾 福 寛	S 38 (気 11)	幹 事	田 代 良 二	S 55 (気 28)
			幹 事	柏 葉 安 宏	H09 (電電 2)

# 令和元年度電気電子通信コース、 知能・メディア情報コース構成員名簿

令和2年1月1日現在

電気電子通信コース (コース長 向川政治 教授)		氏名
職名		
教授		長田 洋
教授		小林 宏一郎
教授		高木 浩一
教授		恒川 佳隆
教授		西館 数芽
教授		本間 尚樹
教授		向川 政治
准教授		秋山 雅裕
准教授		叶 榮彬
准教授		菊池 弘昭
准教授		大坊 真洋
准教授		高橋 克幸
准教授		三浦 健司
助教		阿部 貴美
助教		岩井 守生
助教		佐藤 宏明
助教		田野崎 真司
助教		村田 健太郎

知能・メディア情報コース (コース長 藤本忠博 教授)		氏名
職名		
教授		今野 晃市
教授		永田 仁史
教授		西山 清
教授		萩原 義裕
教授		藤本 忠博
准教授		明石 卓也
准教授		木村 彰男
准教授		金 天海
准教授		張 建偉
准教授		中谷 直司
准教授		松山 克胤
准教授		山中 克久
准教授		吉森 久
講師		平山 貴司
助教		佐藤 信
助教		藤岡 豊太
助教		盧 忻
事務補佐員		懸田 ひかる

## 理工学系技術部

職名	氏名
第一技術室長	星 勝徳
技術専門職員	志田 寛
技術専門職員	千葉 寿
技術専門職員	萩原 由香里
技術職員	増山 静香
技術職員	平山 有沙
技術職員	藤原 歩
技術職員	古館 守通
技術職員	石川 利明
技術職員	太田 康治
技術職員	千葉 茂樹
技術職員	那須川 徳博

## 情報技術部

職名	氏名
技術室長	栗田 宏明

## －特別寄稿－

# 日本一周（＋韓国＋ロシア）クルーズ

伊 藤 稜 威（昭和 40 年電気卒）

### <はじめに>

前回（2013 年）には世界一周クルーズを体験しましたが、今回は日本一周クルーズに参加しましたのでご紹介いたします。

まずクルーズの概要をご説明いたします。寄港地は日本各地 8 港＋韓国（釜山）＋ロシア（ウラジオストック）の 10 港です。期間は 2019 年 8 月 4 日～ 23 日の 20 日間です。

主催団体はピースボート（NGO）、船はオーシャンドリーム号（パナマ船籍、35,265 トン、乗客約 1,000 名、乗員約 500 名）は前回と同じです。

### <目的の寄港地で感じたこと>

① 8 月 6 日（火）雨：広島

\* 台風 9 号のため船は広島港に着岸できず、広島の平和記念式典には誰も参加できませんでした。代わりに乗客&乗員の一部は船内の集会場に集まって、テレビを見ながら 8 時 15 分に合わせて黙祷しました。

\* 被爆者講演会：三宅信雄さん（90 歳）広島原爆の被爆者のお話

1945 年 8 月 6 日の 8 時 15 分に、三宅さんは爆心地から 1.8km の地点で被爆されました。勤労奉仕で通勤電車内にいたので命は助かりましたが、電車外は地獄状態だったようです。当時三宅さんは旧制高等学校の 1 年生（16 歳）だったそうです。その後は被爆者として被爆地広島が恐ろしく、東京に移り住んだそうです。

原爆被害の恐ろしさを、沢山の写真を交えた Power Point で作成した資料を使って説明されました。90 歳になっても核兵器廃絶運動をされており、お話の迫力は聴衆を圧倒していました。

② 8 月 9 日（金）晴：長崎

\* 長崎市内の原爆被害の跡を観光バスで巡りま

した。平和公園では平和記念像の前で黙祷しました。また永井隆博士記念館や、山王神社の被爆で半分残った鳥居を見ることができました。

\* 核廃絶講演会；川崎 哲さん（50 歳）ICAN 国際運営委員のお話

ピースボートは 2017 年にノーベル平和賞を受賞した ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）の日本の支援団体であり、川崎さんはピースボートの共同代表です。川崎さんは「核兵器の廃絶は可能」との信念のもとに、われわれ市民が国連や核保有国政府に粘り強く働きかけることが重要と主張していました。日本政府は国連決議に反対の立場ですが少数派です。

③ 8 月 10 日（土）晴：釜山

\* 日韓関係について：日韓の間には以前より歴史認識、領土問題があり、最近では更に貿易や国防問題が注目されていますが、市民レベルでは緊張関係は全く感じませんでした。観光地でも繁華街でも同様でした。

\* 朝鮮通信使について：釜山にある「朝鮮通信使歴史館」を見学しました。朝鮮通信使は滋



## －特別寄稿－

賀県に深い関係があって興味を持って見学しました。彦根は主な宿場のひとつで宗安寺がその中心だったこと、雨森芳洲（江戸時代中期の儒者）が重要な役割を担っていたことも解説されていました。

### ④ 8月14日（水）曇：ウラジオストック

\* 天候：最高気温が21℃と前寄港地の金沢の40℃に比べとても寒かったです。秋服に着替えましたが、それでも震えていました。さすがシベリアの天気です。この寒い朝に着岸した当船に対し現地の少年&少女たちは民族衣装に身を包みロシア民謡に合わせた踊り（バレエ？）で歓迎してくれました。

\* 外見は東洋のサンフランシスコと呼ばれる美しい都市です。（坂道、吊り橋などが似ている）。また、日本から見ると一番近いヨーロッパ（白人の生活、文化）が見られる都市です。一方鉄道、道路、下水などの公共インフラは日本に比べて半世紀遅れていると感じました。（特に公園や観光地のトイレは最悪でした）

\* シベリア鉄道の乗車体験：終着駅ウラジオストック駅から約1時間乗車体験しました。速度は時速50～60kmと遅く、モスクワまでの所要時間は約1週間とのことでした。

因みにウラジオストック～モスクワの距離は9,288km、時差は7時間です。ロシアの国土の広さに驚いた次第です（小生は10数年前モスクワ～サンクトペテルブルグ間を夜行寝台列車に乗車した経験あります）

### ⑤ 8月17日（土）雨：北方4島付近を通過予定だったが中止、知床半島周遊&釧路観光も中止。

\* 台風10号接近のため航路変更（代替港は函館）となり残念ながら北方4島付近通過は中止、船上からの視察は不可となりました。4島返還交渉は安倍首相とプーチン大統領が何度交渉しても進展しない歯がゆさを感じます。

### ⑥ 8月21日（水）晴：石巻

\* 石巻は2011年3月11日に発生した東日本大震災の最大の被災地です。震災から8年以上経ちましたが、まだ復興は道半ばで津波被害

の爪痕が残っていました。特に小生が印象に残ったのは大川小学校と門脇小学校の被害の差でした。両校とも津波の大きさや校舎の破壊状況、避難場所などは大きな差が無かったにもかかわらず、人的被害の大きな差に大変驚きました。

・大川小学校：生徒108人中74人、教師11人中10人死亡：高台に逃げなかった。

・門脇小学校：生徒240人教師とも全員無事で死亡者0人：高台に逃げた。

（大川小学校の父兄が県・市相手に訴訟を起こし、2019年10月11日最高裁で勝訴しました）

## <移動日の船内生活>

上記①～⑥のような堅苦しい話題だけではなく、船内では多くのイベントがあって大変楽しいひとときが多くありました。

・映画会、講演会（落語家、作家、タレント…… 緩いお話）

・英会話教室、地球大学などの教養講座

・夏祭り、ダンスパーティー、誕生パーティー、浴衣コンテスト、カラオケ大会などのイベント

・趣味：碁、将棋、麻雀などの乗客同士の交流

・居酒屋、バーなどの飲食店での語り合い

海上や船内ではテレビ、新聞、パソコン、電話などの情報通信が困難なため、日常生活とは生活環境が大きく変化します。これらの生活環境の変化が心身のリフレッシュになりました。

## <おわりに>

今回のクルーズ参加の目的は「はじめに」に記した上記6項目でしたが、台風の影響で①が変更、⑤が中止になりました。達成率は67%とまずまずの成果となりました。前回の世界一周クルーズ85日間の約1/4で20日間の旅でしたが、日本が南北に細長い国であること、ロシアの極東地方は気候、風土、文化の違う近くて遠い国であること、津波の恐ろしさ（石巻）、広島と長崎の被爆事情などを再認識した次第です。今後は核兵器廃絶、日韓関係の改善、北方領土返還の実現と我が国の自然災害の低減を願って結びといたします。

## 2019年 岩手大学訪問報告

東京支部 副支部長 内藤千寿（平成6年電子卒）  
事務局 佐伯勇輝（平成4年電気卒）

2018年に同窓会役員以外から大学を訪問させて頂きました。今年も光栄なことにご指名を頂き2年連続の岩手大学訪問です。私は前回の訪問で何か母校のために出来ればと思い同窓会役員になりましたので役員としての訪問です。

10月18日（金）関東地方はコートを着ていると少し暑いかなという天気でしたが、水沢江刺駅あたりから新幹線のシートにヒータが入り、今年初の暖房だな、盛岡に近づいて来ているんだなあと考えているうちに11時、盛岡駅に到着、気温は14℃でしたが空気がピンとしており少し肌寒いかなという感じでした。今回の訪問者は、支部長の狩野さん、副支部長の内藤さん、私の3名でした。去年も来ているので、おお！これは懐かしいぞ、とか感じる事は少ないかなと思っておりましたが、グッドタイミングで学生達が不來方祭の準備中。これは、懐かしさ満点で、準備中の学生達を見てしみじみとしてしまいました。



まずは、2020年に東京で開催予定である一祐会総会の件でいろいろとフェーズを合わせるために一祐会事務室へ、支部長と一祐会の小田島さんと『北杜』に載せる開催案内の原稿の締め切り日の話から始まり、総会の受付のやり方など非常に細やかな部分まで打ち合わせをされ、来られる方々皆に満足して頂ける総会に

したいという気持ちがひしひしと伝わって来ました。私はほとんど戦力になれず邪魔にならないように静かにお茶をすすっていました。狩野さんすみません。

軽く昼食をすませ、いざ学生達のもとに、だったのですが、工学部食堂でもキャッシュレス化が進んでおり、本当に岩大だよなど二度見する場面もちらほら、更に1万円札で400円ぐらいのかき揚げそばを支払うものだからレジのお姉様に少し怪訝な顔をされながらおつりを頂き、後ろで待っている私の息子より若い学生さんに見られ、少し気恥ずかしくもあり、また30年前、毎日私のお腹を満たしてくれていた工学部食堂で食べれるぞ、という嬉しさもあり、恐縮しながら郷愁の念が満たされていく中、更にお蕎麦でお腹も満たされるというなかなか味わえない思いをさせて頂きました。



さて、お楽しみの実験室巡りです。

- ・電気電子系：小林先生、長田先生、阿部先生、高木先生、高橋先生
  - ・情報系：荻原先生、藤本先生、木村先生
- 6つの研究室にお邪魔させて頂きました。

去年と同じく技術職員の方の部屋に荷物を置かせて頂き、そこを拠点として研究室巡りをさせて頂きました。去年、人間の巡り合わせというか、やっぱり世界は広いようで狭いんだ的に知り合いになりました技術職員の増山さんと写真をパシャリ。どうしてこんなおじさんがこんなに綺麗な方と知り合いに。。。と思われた方は2018年の報告書に知り合いになった経緯を書いておられますので東京支部のHPをご一読くださいませ。

－特別寄稿－

話が脱線してしまいました。研究室巡りに戻ります。去年は、学生達が打ち込んでいる研究内容が仕事で即戦力として役に立つのか、という観点で見てしまっていたので少し物足りなさを感じていたのですが、今年



増山さん 佐伯氏

人間形成という観点で見ってみました。学生達が自分のやっている事、知識として取り込んだ内容を意気揚々と聞いて下さいと言わんばかりに、苦勞して採取したであろうデータに関してはサラッと流し、進捗状況やそのデータに基づいた結論を我々に話をする姿を見ると、真っ直ぐに成長されているなあ、先生方と二人三脚で勉強しているのだなあと感じました。

いろいろとプレゼンして頂きましたが一番記憶に残ったのは、ザゼンソウの研究でした。私はザゼンソウの存在をこの時初めて知ったのですがザゼンソウは植物です。学生の説明を聞く前は、食べられる植物で、電気を利用して屋内で栽培可能になる、とかの内容かと思ったのですが、ザゼンソウは時期により発熱する植物であり、このザゼンソウのもつ生態エネルギーがどのようにして熱エネルギーへ変換されるのか、そのメカニズムを研究しているとの事でした。

以下は、Wikipedia 先生からの抜粋です。

\*\*\*\*\*

仏像の光背に似た形の花弁の重なりが僧侶が座禅を組む姿に見えることが、名称の由来とされる。冷帯、および温帯山岳地の湿地に生育し、開花時期は1月下旬から3月中旬。開花する際に肉穂花序（に



くすいかじょ) で発熱が起こり約 25℃ まで上昇する。そのため周囲の氷雪を溶かし、いち早く顔を出すことで、この時期には数の少ない昆虫を独占し、受粉の確率を上げている。開花後に大型の葉を成長させる。ザゼンソウの発熱細胞には豊富にミトコンドリアが含まれていることが明らかになっている。しかしながら、発熱の詳細な分子メカニズムは、現在のところ分かっていない。

\*\*\*\*\*

解明されていない仕組みを解明する。このために先生と一緒にチーム一丸となって色々なアプローチを考え、進み、そして真理にたどり着く。たどり着かないまでも真理に近づいている事を肌で感じる。20 代の純粋な時代にこのような経験をする事は、今後、社会人となって成長して行くための重要な要素だと思いました。

他には、土無しで植物を栽培するや UV 光を検出する単結晶センサ、近赤外光と画像処理の応用技術で血管の位置を映像化する研究、ステレオカメラを利用して人間の動きにリンクしたワイヤフレームをパソコン上で表示させる、デジカメで撮った 2D の写真から写っている物の寸法を算出するソフトの研究など、時間が許すのであれば一緒に実験したくなるような、ワクワク感 100% の先生方の優しさあふれるテーマばかりでした。

懇親会、楽しみにしていた学生達にいろいろと偉そうに話せる場である懇親会。残念ながら仕事の都合で日帰りしなければならず途中で戦線離脱。あまりにも楽しくて帰りの新幹線の時間が迫っている事にも気がつかず学生達と夢中で話をしていました。高橋先生に声をかけて頂いていなかったら危うく新幹線に乗り遅れるところでした。高橋先生、タクシーの手配までして頂きありがとうございました。学生の皆さん、今やっている事全てが自分の血となり肉となります。是非、仲間や先生方と一緒に考え、たくさん議論し、真理を追究して下さい。そして岩大魂をひっさげて社会に飛び出して来て下さい。最後になりますが、萩原先生、高橋先生お忙しい中、お付き合い下さりありがとうございました。

## ＜ HP のご案内 ＞

2016年6月の科会創立75周年式典で、草刈功労賞を受賞した小野寺瑞穂さんは、岩手めんこいテレビの長寿番組「山・海・漬」で、放送開始以来ナレーターを担当、2019年秋に放送1000回に達しました。これを機に科会ホームページに「ラジオドラマ草創期の思い出」を寄稿していただきました。小野寺さんは学生時代の昭和26年からNHKラジオ連続ドラマ制作に関わり、演劇や方言指導、ナレーターとして多方面で活躍しています。

紙幅の都合により「序文」だけの掲載になりますが、科会ホームページの「会員便り」(<http://www.fukura.ne.jp/ddj-kakai/letter.html>)に全文を掲載しています。ぜひご覧ください。  
(ホームページ運用委員会 宮手)



## ラジオドラマ草創期の思い出

小野寺 瑞穂 (昭和29年電気卒)

### はじめに

NHK盛岡放送局(コールサインJOQG)は、仙台・秋田・山形・弘前について、昭和13年9月に開局(ラジオ500ワット)。東北で5番目の開局であった。

私が市立厨川尋常高等小学校に入学した年である。因みに母校盛岡高等工業学校(現岩手大学理工学部)は翌14年の創立だから、その1年前と云うことになる。

小学校の「定番・遠足コース」高松の池に向かう時、黄金色に輝く田園の中に、秀峰岩手山を背景に、小さな白いマッチ箱様のQGの局舎があった。局舎の両側には、2基の高さ50メートルのアンテナ鉄塔が挟むように並び立ち、構内入り口には、高松交番が丸い赤ランプを灯して、盛岡放送局を警護するかのようの上田通りを睨んでいた。

「へー、これが放送局か…？」なぜか、小さな胸が興奮を覚えたものであった。ところが、思いもかけないことが起きた！放送劇に出演のチャンスが訪れたのである。大東亜戦争勃発の翌年ではなかったろうか、小学5年生頃だったと記憶する。

ラジオドラマの筋書きは、郷土の伝説を基に岩手山と姫神山、早池峰山の葛藤を劇化したものではなかったろうか、今となっては記憶にない。ただ、記憶に残るのは、演出してくれた人、お世話してくれた人？は事務職の人でありながら、スタジオに持ち込んだトタンをドロドロと鳴らし大噴火を表現するなど、効果マンの働きまでしてくれたこと。出演者は男女合わせて、(劇中の音楽を担当した級友も含めて?)20数人と記憶するが、揃って小ざっぱりとして、放送に臨んだことであった。(ラジオでは姿が見えないんだよね)

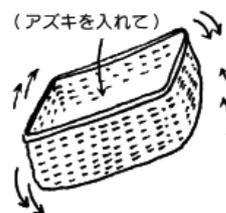
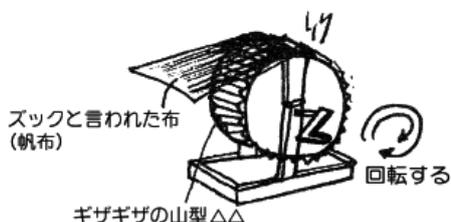
そんなことがきっかけになった訳ではないが、戦後間もない26年正月から、現在に至るまで、60有余年。県内外のNHKや民放で、放送業界の中で、好きな仕事に没頭することが出来たことが生涯の思い出であった。(27年盛岡放送劇団第1期生となる)

馬齢を重ね、八十路も半ばを越え、未だ現役？で携わる者として、かつてのQGのドラマ草創期に関わった思い出を、忘却の彼方より引き戻し、記録に残しておきたいとペンを執った次第である。



### ラジオドラマ草創期に欠かせなかった擬音道具

風が吹いて・・・雨が降り始め・・・海辺の波も・・・



(続きは科会ホームページでお会いしましょう！)

# 平成 31 年・令和元年年表

1/11	電気電子工学専門研修 「半導体分析技術の基礎と応用」 坏晴子 氏（東芝メモリ(株)メモリ技術研究所）
1/25	電気電子工学専門研修 「半導体技術を用いたマイクロシステムの基礎」 江刺正喜 氏, 戸津健太郎 氏（東北大学マイクロシステム融合研究開発センター）
1/26	盛岡支部主催科会新年会 盛岡市ホテルルイズ 25 人
1/29-30	平成 31 年度大学院総合科学研究科理工学専攻第 2 期入学者選抜試験《平成 31 年 4 月入学》
1/31	平成 31 年度大学院工学研究科博士課程第 2 期入学者選抜試験《平成 30 年 4 月入学》
1/31	「きたかみ」65 号第 3 回編集委員会、30 年度第 3 回会費検討委員会 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部地域連携センター
2/5	博士後期課程電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）博士論文にかかる公聴会
2/6	入学願書受付締切。システム創成工学科電気電子通信コース：前期 2.1 倍, 後期 4.3 倍, 同知能・メディア情報コース：前期 2.7 倍, 後期 6.0 倍
2/7	草刈賞選考委員会 岩手大学理工学部 選考委員 電気電子工学コース：(小林宏一郎 (コース長)・三浦健司 (4 年生担任) 情報システム工学コース：永田仁史 (コース長)・中谷直司 (4 年生担任) 電気電子情報科会：久保田賢二 (会長)・柏葉安兵衛 (相談役・選考委員長)
2/7	「きたかみ」65 号第 4 回編集委員会、30 年度第 4 回会費検討委員会 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋理事 理工学部地域連携センター
2/8	博士後期課程電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）博士論文にかかる公聴会
2/8	電気電子工学専門研修 「半導体技術を用いたマイクロシステムの応用」 江刺正喜 氏, 戸津健太郎 氏（東北大学マイクロシステム融合研究開発センター）
2/15	理工学専攻電気電子通信コース修士論文審査会
2/15	電気電子・情報システム工学科（情報システム工学コース）卒業研究発表会
2/15	「きたかみ」65 号校了
2/20	理工学専攻知能情報コース修士論文審査発表会
2/22	博士後期課程電気電子・情報システム工学専攻（電気電子工学分野）博士論文にかかる公聴会
2/25	平成 31 年度個別学力検査前期日程
2/27	電気電子・情報システム工学科（電気電子工学コース）卒業研究発表会
3/1	「きたかみ」65 号発行 5400 部
3/6	新正会員歓迎会 59 人（新正会員・院生 40 人） 岩手大学理工学部生協食堂 第 16 回草刈賞候補者紹介 菊池航平（電気電子工学コース）村山祐樹（電気電子工学コース）
3/12	平成 31 年度個別学力検査後期日程
3/22	岩手大学卒業式・修了式 工学部卒業生：電気電子・情報システム工学科 131 名（電電コース 74 名, 情報コース 57 名） 大学院総合科学研究科（修士課程）理工学専攻修了生：電気電子通信コース 44 名, 知能情報コース 11 名 大学院工学研究科博士後期課程修了生：電気電子・情報システム工学専攻 3 名
4/1	岩手大学改組 大学院工学研究科博士後期課程が理工学研究科（博士課程）に再編 （旧電気電子・情報システム工学専攻はシステム創成工学専攻の電気電子通信工学分野と知能情報工学分野に再編）
4/1	村田健太郎氏を電気電子通信コース助教として採用
4/5	岩手大学入学式 理工学部入学生：システム創成工学科電気電子通信コース 69 名（うち地域創生特別プログラムものづくり系 1 名）、同知能・メディア情報コース 63 名（うち地域創生特別プログラムものづくり系 2 名） 3 年次編入学生：電気電子通信コース 3 名, 知能・メディア情報コース 5 名 総合科学研究科理工学専攻修士課程入学生：電気電子通信コース 36 名, 知能情報コース 11 名 理工学研究科システム工学専攻博士課程入学生：電気電子通信工学コース 1 名, 知能情報工学コース 1 名
5/1	「令和」に改元
5/15	【理工学部創立 80 周年記念講演会】（復興祈念銀河ホール） 「岩手のこれからの 10 年における展望と岩手大学理工学部への期待」 達増拓也氏（岩手県知事）
5/20	平成 30 年度岩手大学電気電子情報科会会計監査 大坊真洋会計監査・佐々木眞嗣監査・久保田会長・柏葉相談役・柳橋副会長 岩手大学理工学部
5/20-24	岩手大学理工学部授業一般公開
5/21	理事会事前打合せ 理事会協議提案事項について 久保田会長・柏葉相談役・立花副会長・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋副会長 岩手大学理工学部
5/23-24	電気電子通信コース ソフトボール大会
5/25	盛岡・つなぎ間ロードレース大会（岩手大学学生, 教職員約 160 名参加）
5/25	令和元年度第 1 回理事会 総会提案事項協議 17 人 一祐会館 令和元年度総会について、創立 80 周年日程について、その他
6/6	博士前期課程電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学コース）修士論文予備審査会《令和元年 9 月修了予定者》
6/13	電気学会東北支部岩手支所講演会（復興祈念銀河ホール）

	「震災後の電力技術者；震災の事故の要因分析、新たな安全対策技術等」上坂昌生氏（東京電力ホールディングス福島第二原子力発電所保全部原子炉プロジェクトグループマネージャ）
6/15	令和元年度盛岡支部総会 エスポワールいわて
6/15	令和元年度岩手大学電気電子情報科会総会 28人 盛岡市エスポワールいわて 平成30年度事業報告・決算報告・会計監査報告・令和元年度事業計画・予算について 特別講演 齊藤久昭氏（電子54年卒）「建築防災の現状と防災気象情報の利活用」
6/20-21	令和2年度一般編入学者選抜試験
6/22	令和元年度仙台支部総会 ハーネル仙台
6/29	東京支部大会 新宿サンパークビル
7/2	総合科学研究科理工学専攻推薦入学者選抜試験《令和2年4月入学》
8/5	博士後期課程電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）博士論文にかかる公聴会
8/7	オープンキャンパス
8/19	博士後期課程電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）博士論文にかかる公聴会
8/21-23	令和元年度大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）入学者選抜試験《令和元年10月入学》 令和2年度大学院総合科学研究科理工学専攻（修士課程）入学者選抜試験《令和2年4月入学》 令和元年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和元年10月入学》 令和2年度大学院理工学研究科博士後期課程入学者選抜試験《令和2年4月入学》
8/23	博士後期課程電気電子・情報システム工学専攻（情報システム工学分野）博士論文にかかる公聴会
8/29	理事会事前打ち合わせ 会長・事務局3人・柏葉相談役 岩手大学理工学部
8/31	令和元年度第2回理事会 15人 エスポワール岩手
9/20	令和2年度理工学部 AO 入試 I（第2次選考）
9/25	令和元年度岩手大学修了式・卒業式（農業教育資料館） 工学部卒業生：電気電子・情報システム工学科1名（情報コース） 大学院工学研究科博士前期課程電気電子・情報システム工学専攻：情報システム工学コース1名修了 大学院工学研究科博士後期課程電気電子・情報システム工学専攻：情報システム工学分野3名修了
9/28	令和2年度理工学部 AO 入試 II（第1次選考）
9/下-10/上	理工学専攻電気電子通信コース修士論文中間審査会
10/1	岩手大学入学式（令和元年度10月入学者） 大学院理工学研究科（博士課程）システム創成工学専攻入学生：知能情報工学コース1名
10/19-20	不来方祭
10/19	岩手大学創立70周年記念講演会・記念式典 10:00～12:00 卒業生・修了生と学長との懇談 14:00～15:30 記念講演会（対談形式）若竹千佐子氏（芥川賞受賞作家，教育学部卒業生），聞き手：今野日出晴氏（教育学部教授，附属小学校長） 15:45～17:00 記念式典 17:30～19:30 祝賀会（ホテルメトロポリタン盛岡 NEW WING）
10/25	電気電子工学専門研修 「キャリアデザインの基礎知識＜企業という存在の理解＞」阿部新生氏（㈱ソフトクリエイティブホールディングス取締役）
11/1	電気電子工学専門研修 「半導体の信頼性と最近の話題」塩野登氏（日本電子部品信頼性センター 理事長）
11/8	電気電子工学専門研修 「ICTを活用した鳥獣害対策システムの研究開発」村上友規氏（日本電信電話㈱アクセスサービスシステム研究所主任研究員）
11/11-15	岩手大学理工学部授業一般公開
11/15	電気電子工学専門研修 「持続可能な社会に向けた取り組み、SDGsへの対応」山崎慶太氏（㈱竹中工務店技術研究所）
11/18	「きたかみ」66号第1回編集委員会、岩手大理工学部地域連携センター 久保田会長・宮手盛岡支部長・柏葉相談役・長田理事・木村理事・柳橋副会長
11/20	令和2年度岩手大学理工学部推薦入試 I
11/20	【ETロボコン2019全国チャンピオンシップ大会】（パシフィコ横浜） 知能・メディア情報コースと県内電気機器メーカーとの産学連携チーム「がんちゃん+X」が TOPPERS 賞を受賞
11/22	電気電子工学専門研修 「アイオー精密 デジタルものづくりへの挑戦 - 県内製造業へのIoT実践事例」鬼柳一宏氏，阿部健一氏（㈱アイオー精密）
11/29	電気電子工学専門研修 「モビリティのこれからを考える」中村正彦氏（アイシン・ソフトウェア㈱基盤技術開発部 主査）
12/上	大学院理工学専攻（修士課程）知能情報コース修士論文予備審査会《令和2年3月修了予定者》（分野別に実施）
12/11	理工学専攻電気電子通信コース修士課程1年次中間発表会
12/20	電気電子工学専門研修 「イメージセンサーの技術、動向について」盛一正成氏，佐々木崇策氏（ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング㈱）
12/21	令和元年度第3回情報処理学会東北支部研究会開催
12/23	科会新年会打合せ、「きたかみ」66号第2回編集委員会 第1回会費検討委員会 岩手大学理工学部地域連携センター 久保田会長・立花副会長・柏葉相談役・宮手盛岡支部長・長田理事・木村理事・柳橋副会長

# 岩手大学電気電子情報科会会則

## 第1章 総 則

第1条 本会は岩手大学電気電子情報科会と称する。  
第2条 本会は盛岡高等工業学校電気科、盛岡工業専門学校電気科、岩手大学工学部電気情報系工学科、並びに岩手大学理工学部システム創成工学科電気電子通信コース、知能・メディア情報コース（以下、電気情報系コースという）及び大学院工学研究科電気情報系工学専攻並びに岩手大学大学院総合科学研究科理工学専攻電気電子通信コース、知能情報コース（以下、岩手大学大学院電気情報系コースという）の傘下集った者の親睦を図り、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。

第3条 本会の本部事務所は盛岡市上田 岩手大学理工学部電気情報系コースに置く。  
本会に支部を置くことができる。支部の設置は総会の承認をうけるものとする。  
第4条 本会は第2条に定めた目的を達成するために会誌の発行、講演会等を行う。

## 第2章 会 員

第5条 会員を分けて特別会員、正会員、準会員とする。

第6条 特別会員は岩手大学工学部電気情報系工学科、岩手大学理工学部電気情報系コースの現・旧教職員とする。

第7条 正会員は盛岡高等工業学校卒業生、盛岡工業専門学校卒業生、岩手大学工学部電気情報系工学科卒業生、岩手大学理工学部電気情報系コース卒業生、岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻修了生、岩手大学大学院電気情報系コース修了生、並びに役員会の承認を経た者とする。

第8条 準会員は岩手大学工学部電気情報系工学科及び岩手大学理工学部電気情報系コースの在校生、並びに岩手大学大学院工学研究科電気情報系工学専攻学生、岩手大学大学院電気情報系コース学生のうち正会員でない者とする。

## 第3章 会 計

第9条 本会の会計は一般会計及び基金特別会計とする。  
基金は将来のために積み立てるものとする。但し、その利息は一般会計に繰り入れることができる。

第10条 会費は準会員入会時に入会費として10,000円を納入する。また、卒業後10年を経過した正会員は年会費として10年毎に10,000円を納入する。  
尚、納入した会費は理由の如何を問わず返却しない。

第11条 本会の収支は毎年4月末日に於いて決算を行い、会計監査を経て総会に於いて承認をうけ併せてこれを報告する。

## 第4章 会 議

第12条 会議は総会、臨時総会、役員会及び理事会とする。

理事会は、会長、副会長、理事及び相談役を以て構成する。

第13条 総会は毎年1回会長がこれを招集して出席人員を以て成立する。

第14条 臨時総会は役員会に於いて必要と認められた時、会長がこれを招集する。

第15条 役員会及び理事会は必要に応じて会長が招集する。

## 第5章 役 員

第16条 本会に次の役員を置く。

会 長 1名 正会員より選出する。  
副会長 3名以内 正会員より選出する。  
理 事 正会員より互選する。  
尚、各支部長は理事を兼ねるものとする。

会計監査 2名 正会員より選出する。  
幹 事 正会員より理事会で推薦し会長が委嘱する。

顧 問 若干名 特別会員より会長がこれを委嘱する。

相談役 元会長は終身相談役として委嘱するものとする。

第17条 各役員任期は2ケ年とし、再選できる。改選は総会に於いて行なう。  
但し任期中欠員ができた場合は役員会に於いて選出し補充する。

第18条 会長は本会を代表しその事務を総括する。  
副会長は会長を補佐する。  
理事は本会の庶務を掌理する。  
会計監査は会計を監査する。  
事務局担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物件の保管の責に任ずる。  
幹事は会員相互の親睦と連絡の任に積極的にあたる。

第19条 支部に支部長を置き、本部に準じて役員をおくことができる。

第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。

第21条 講演会及び座談会は随時行う。

第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。

第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

## 第6章 会誌、講演会及び座談会

第20条 本会は会誌「きたかみ」を発行して会員に配付する。

第21条 講演会及び座談会は随時行う。

第22条 支部の内規は各支部に於いて定め、会長の認可を受けることにする。

第23条 会則の変更は総会に於いて過半数の賛成が無ければ変更する事ができない。

## 付 則

本会則の第10条の改定は、平成16年5月1日から施行する。

(昭和17年1月1日制定) (平成4年度総会一部改正)

(昭和25年度総会一部改正) (平成11年度総会一部改正)

(昭和37年度総会一部改正) (平成12年度総会一部改正)

(昭和40年度総会一部改正) (平成15年度総会一部改正)

(昭和41年度総会一部改正) (平成20年度総会一部改正)

(昭和46年度総会一部改正) (平成21年度総会一部改定)

(昭和50年度総会一部改正) (平成22年度総会一部改定)

(昭和51年度総会一部改正) (平成27年度総会一部改定)

(昭和56年度総会一部改正) (平成28年度総会一部改定)

# 「きたかみ」66号トピックス

## ◆岩手大学から科会に感謝状◆

令和元年5月30日、岩渕学長を始めとする岩手大学理事や学部長等が列席する中、令和元年度岩手大学感謝状贈呈式、および名誉教授称号授与式が執り行われました。今年度は、電気電子情報科会を含め、4団体と個人へ感謝状が贈られました。

感謝状は、学生の充実した学生生活を継続的に支援したことに対して贈られたもので、本科会においては日頃の同窓会活動に加えて、平成16年1月7日に制定、以降16年間にわたり継続して支援している「草刈賞」の活動が高く評価され、岩渕学長より、今後も継続してご支援いただきたいと改めてお願いされました。



## ◆科会ホームページ不具合のお詫び◆

科会ホームページの1次サーバー移転に伴い、12月11日未明から一時的にホームページが閲覧できない不具合が発生し、ご迷惑をおかけしお詫び申し上げます。移転によりURL変更を余儀なくされ、URLが <http://www.fukura.ne.jp/ddj-kakai/> に変わりました。

## 編集後記

「きたかみ」66号をお届けします。久しぶりに各支部からの寄稿頁を設けることが出来ました。今回は仙台支部が担当しました。

令和2年度総会は仙台で開催します。沢山の会員の出席をお待ちしています。

第157回芥川賞を受賞した盛岡在住の作家沼田真祐氏の小説「影裏」が映画化され、この「きたかみ」が届くころには全国で公開されていると思います。盛岡出身の大友啓史監督が盛岡を中心に全編岩手で撮影したとのこと。懐かしい盛岡の景色や空気を感じることができるのではないのでしょうか。

同じく第158回芥川賞受賞の岩手大学卒若竹千佐子氏の「おらおらでひとりいぐも」も映画化され本年中には公開されるそうですが、東北弁（遠野弁）がどこまで活かされるか楽しみです。

編集委員 久保田 賢 二 (会長：昭和42年電気卒)  
柏 葉 安兵衛 (相談役：昭和38年電気卒)  
宮 手 敏 雄 (盛岡支部長：昭和44年電気卒)  
立 花 龍 一 (副会長：昭和61年情報卒)  
長 田 洋 (事務局：昭和62年電気卒)  
木 村 彰 男 (事務局：平成3年情報卒)  
柳 橋 好 子 (副会長・事務局：昭和45年電子卒)

## 創立 80 周年記念式典のご案内

昭和 17 年 (1942 年) 1 月 1 日に設立された本会は、令和 4 年 (2022 年) 1 月 1 日で、創立 80 年の記念すべき日を迎えます。

本会ではこれを記念して、令和 3 年 6 月に予定している総会当日、総会後に「岩手大学電気電子情報科会創立 80 周年記念式典」を執り行うべく計画しております(詳細は来年度発行の会誌「きたかみ」67 号に掲載予定)。

会員各位におかれましては多数ご参加下さるよう、ここに前もってお知らせし、ご案内申し上げます。

### き た か み 第66号

発行日 令和 2 年 3 月 1 日  
発行者 盛岡市上田 4 丁目 3 番 5 号  
岩手大学理工学部内  
**岩手大学電気電子情報科会**  
☎ 019-621-6381  
印刷所 (株)阿部謄写堂  
盛岡市本町通 2 丁目 8 番 37 号  
☎ 019-623-2361

# 令和2年度岩手大学電気電子情報科会並びに 懇親会総会開催のご案内

令和2年度の電気電子情報科会総会は、仙台において下記のように開催することになりましたので御案内申し上げます。会員各位の多数のご参加をお待ちしております。

総会への出欠については、「きたかみ」綴込みのハガキに、住所や連絡先等をご記入いただき、一ヶ月前の令和2年5月27日までにご投函いただきたくお願い申し上げます。

## 記

日	時	令和2年6月27日(土)
	受付	午後1時30分～
	仙台支部総会	午後2時00分～2時30分
	総会	午後2時30分～3時20分
	講演会等	午後3時20分～4時50分
	集合写真	午後4時50分～
	懇親会	午後5時00分～7時00分

場 所 ハーネル仙台  
〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目12-7  
TEL 022-222-1121

議 題 1. 令和元年度事業報告、決算報告承認  
2. 令和2年度事業計画案、予算案審議  
3. その他

講 演 会 演題「電気系コースの近況(仮)」  
講師：本間尚樹教授(電気電子通信コース長)  
演題「オリンピックの通信ネットワークについて」  
講師：数藤崇氏(仙台支部長 昭和52年電気卒)

懇親会会費 5,000円(懇親会席上で、昨年秋・今年春に叙勲された方を御紹介し、祝意を表します。  
叙勲された方を御存知の方はお知らせ下さい。)

連 絡 先 総会出欠・叙勲された方の紹介等、会誌「きたかみ」に綴込みのハガキを使用するか、  
下記事務局宛電話、FAX又はE-mail等でご連絡下さい。

岩手大学電気電子情報科会	E-mail: iwate.ddj.kakai@gmail.com
岩手大学電気電子情報科会事務局(岩手大学理工学部内)	
電気電子通信コース担当	長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381
知能・メディア情報コース担当	木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488
庶務会計・学外担当	柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253